

会 議 名	第3回港区幼稚園教育振興検討会
開 催 日 時	令和7年6月10日（火）17時30分～19時10分
開 催 場 所	港区役所9階 914・915会議室
委 員	A委員（委員長）、B委員（副委員長）、C委員、D委員、E委員、F委員、G委員、H委員、I委員、J委員、K委員、L委員
事 務 局	教育推進部長、教育推進部教育長室長、教育推進部教育長室教育推進担当係長、学校教育部学務課長、学校教育部学務課学校計画担当係長
傍聴者	3人
会 議 次 第	1 地域における幼児教育施設の役割について 2 教育課程外における教育活動について 3 その他
配 布 資 料	資料1 港区幼稚園教育振興検討会委員名簿 資料2 地域における幼児教育施設の役割について 資料3 教育課程外における教育活動について
主要な意見等	
C委員	今回の進め方はちょっとおかしいと思う。第1回、第2回に議論してきたことを踏まえ今日第3回目を迎えている。前は各委員から具体的なテーマが提示されたにも関わらず、今日の運びはそれとは全く違うものになっている。
A委員	C委員からの意見も踏まえ考えると、これまでの委員からの意見で言及はあったものの、テーマとして預かり保育を取り上げるのは、唐突な印象を受ける方もいらっしゃるかもしれないと感じた。幼稚園の教育においても、学校教育の一環として教育課程が定められており、幼稚園教育は1年間に39週を下回ってはならず、また、教育課程に係る教育時間は1日4時間を標準とすると定められている。この4時間等というのは子どもたちの負担等を考慮し、学習という形では4時間等が最大だろうと考えた結果とされており、昭和23年3月以来守られている規定。そしてこの1日4時間等を守り、各幼稚園が保育の質の保ってきた経緯がある。教育課程に関係する言葉として「預かり保育」という言葉は本来存在せず、4時間等を超える部分については教育課程外教育と位置付けられている。今の時代に合わせて、教育課程を超えた時間においても、子どもたちにとって良質な環境を作れないかということで、預かり保育という名称となった。なので、預かり保育がどうか、ということではなく、教育課程外教育を充実させるために、幼稚園、区、地域が一体となって取り組むことが大切だと思っている。保育の質を担保するためには、子どもたちの主体性や自発性を保障する必

	要があり、港区の幼稚園にはそういった側面でも非常に恵まれた環境、自然豊かな園庭がたくさんある。今の幼稚園教育の現場を見ている立場からすると、教育課程外教育と教育課程に係る教育時間をつなげてあげないと無理が出てくるように感じている。現代を生きる子どもの精神性を考えたときに、教育課程 4 時間等だけの中だけでは良質な生活を担保しにくくなっているのでは。特に都心に住む子どもは、家に帰っても土もなく、動植物に触れる機会も限られ、室内で日の当たらない環境で過ごすことが多いのではと思う。少子化により子どもが関わる大人や同年代の子どもの数も減っている。社会が成熟すると、どうしてもそうした歪みが出てきてしまう中で、子どもにとって良い環境をどのように守っていくかは難しい課題だと思う。なので、幼稚園の保育が終わったあとに、引き続き幼稚園で良質な環境を提供してもらい、教育課程外において質の高い遊びを提供してもらうのが本来の預かり保育の考え方だと思う。1 日 4 時間等だけでいいのではなく、24 時間等の中で子どもの生活リズムを受けつないでいく幼稚園に変化していく必要があるのではと思う。幼稚園が預かり保育をやらなければいけないというわけではなく、幼稚園のできる範囲でそれぞれに協力し、社会に開かれていないと、子ども 1 人 1 人が置き去りになってしまう社会になっていると感じる。良質な生活をどのように担保するのか、そうした前向きな議論をこの検討会でできると思っており、そうしたことを踏まえてお話ししていただけたらありがたい。
C 委員	いまの A 委員の発言や、教育課程内の教育と教育課程外の教育について幅広に検討していくことに異議はない。前回の会議で行われている議論があったのでその議事録を出してほしい。議事録があったらこんなテーマにはなはらない。前回の皆さんの話ではいろんな具体的なテーマが出た。幼児の減少、外遊びの大切さ、幼稚園の宝である園庭、豊かな自然、動植物を育て触れあう大切さなど。それからインターナショナルスクールに通う港区の子どもが 14% いるというが、H 委員からも以前お話しがあったが、インターナショナルスクールに通う子が増えて保育園の在園率が減っているということもある。西町インターナショナルスクールのような大変立派な教育をされているところもあるが、今のインターナショナルスクール全てが同様の水準であるとは言い難い。途中で辞めてしまうところもある。そういったことも含めて港区はインターナショナルスクールをどう扱うかは大事なポイント。私立幼稚園は宗教教育のような、宗教的な感情を育てることもしており、それも大事なテーマ。今いちばん大変なことは教員の確保。これは喫緊の課題。そういったことに触れない今日のテーマは理解できない。
事務局	資料の補足にもなるが、事務局から説明する。いろいろな立場の方が集まる会議なので、さまざまご意見が出ることを見込んでおり、第 1 回では国においても有識者会議で検討している項目を資料含めてご紹介した。第 2 回では国の考えの前提となる条件について B 委員から補足説明をしていただき、関連してそれぞれの立場から考えをお話いただいたという経緯があった。ただやはりいろいろな立場での考え、論点を皆様がお持ちの中で、一定の枠組みの中での議論ということで、国の有識者会議における現代的諸課題 5 項目を提示している。第 1 回と第 2 回で皆様にいただいたご意見については有識者会議で示された項目に関連して出た意見ということで、今回の資料で

	も提示しているところ。これまでのご意見を踏まえ、どのように進めていくかについては事務局で正副委員長と調整し示していくということで、第2回の会議でも整理をしている。先ほどのA委員からのお話のとおり、預かり保育に特化するのではなく、子どもの教育課程外の教育活動をいかに実りあるものにするのか、そうした中で家庭が追い詰められないようにするためにはどういった取組が必要なのかを議論いただきたい。子育てについては、家庭が一義的責任を負うとされている。ただ国や地方公共団体では幼児が自立性を損なわない範囲で保護者を支援する役割も求められている。なので、幼稚園においては様々な背景を抱えた方を受け入れて最適な環境において子どもの最善の利益を図っている。これは区としての一つの切り口だが、それぞれの立場における考えをお聞かせいただきたい。
C委員	今の話は前回の議論を踏まえないで、1回目と2回目をまとめた中で国の有識者会議の議論というのを大切に扱っていくという説明でいいか。それはおかしい。第1回の検討会で配られた有識者会議の資料は大部分は当たり前のことが書いてあり、異論はない。裏面部分については異論がいくつかありこの場で指摘したが、A委員からも同意をもらった。だから有識者会議の議論はもう終わっており、ここでやる必要はない。今日のテーマとして預かり保育という言葉を持ってくるようなつながりにはなっていない。
事務局	これまでの会議の議論を全く踏まえずに今日の会議を実施しているということはない。これまでの議論でご意見のあったものを整理し、今日の資料で提示しており、それをもとに皆様にそれぞれの立場で意見を出していただくことを望んでいる。検討会として一つの方向に考えをまとめる、揃えるということではなく、幼児教育振興のために広く多くの立場の方の意見を伺って進めることがこの会の本務と認識している。
C委員	では、なぜこれまで出された具体的なテーマを消してしまうのか。これまで出された具体的なテーマが資料には何も書いてないのでは。
A委員	C委員からお話しがあったとおりで、これまでの議論が今回のテーマの2点にまとめられてしまっているところに問題があるのは分かった。かといって本日この会を閉めるわけにはいかないなので、1回目、2回目で皆さんと一緒に議論されたことを踏まえて、幼児教育の役割について、これまでにお話しいただいたことと重なっても構わないのでご意見いただきたい。最初の地域における幼児教育施設の役割についてG委員から順番にお願いしたいと思う。これまでの議論の中で、幼稚園の豊かな環境、各ご家庭での子育ての様子などもお話しいただき、情報発信に関するご意見もいただいた。保護者代表の委員の皆さんは、普段ご自身が思っていることや親御さんの中で話題になることなどを区や幼稚園側の委員に遠慮なく伝えていただけたらと思う。
	1 地域における幼児教育施設の役割について
G委員	港区で子育てをする一保護者として幼児教育の方向性として大切にしていきたいと思うのは、幼稚園と地域社会と家庭が一体となることと考えている。その3つの

どの立場の方たちも孤立しない、させないことが大事なのではないかと思う。最初の子どもが双子だったため、妊娠期から出産などへの不安、家族に頼れない孤独感などがあった。そのときに私を救ってくれたのが港区主催の双子の会だった。母子手帳を受け取りに行ったときに窓口の方にいただいたチラシを見て初めて参加した日から9年が経つが、現在もそのときに会った7組を含む月齢の近い双子のご家庭と毎年お誕生日会を開くなど仲良くしていただいている。出産後に足繫く通っていたのが青山地区にある子育て広場「あい・ぽーと」。多いときは週4~5回通っていた。玄関のドアを開けると明るいスタッフの方が迎えてくださることに何度救われたかと思っている。そのときいつも親身になってくださったスタッフの1人が派遣型のサポート保育を始めて、自宅に来てくださるようになった。双子の娘たちだけでなく、弟もその方を「ばあば」と呼んで親しく温かな関係を築かせていただいている。この方も今年79歳で、今のこの時間も自宅で3人の子どもを見てくれている。そうした子育ての大先輩の方からの「大丈夫よ」という声にどれだけ救われたかを感じている。出産してから3年後に私の子育てにもう一つ素晴らしいコミュニティができた。それが幼稚園。子どもたちにとって初めての社会生活の場であり、たくさんの刺激と学びがある。前回皆様がお話しした園庭などの自然の大切さ、環境や遊びの大切さをまさに実践編として教えてくださる、そんな貴重な場所だという風に思っている。子どもとともに親も育ちあえる環境がそこにあり、私にとって、子育てにとって、とても大切な場所。私の子育てを振り返ってみると、地域の皆様に支えられ、幼稚園に助けられていたと実感する。いま挙げた施設や人の1つでも欠けていたら私のワンオペ育児は成立していなかった。未就園児の会なども含め地域に開かれて誰でもアクセスしやすい存在として浸透していったほしい。今は幼児教育というと読書、計算、英語教育など早期教育が連想されてしまう傾向がある。幼稚園だけでなく、インターナショナルスクールや保育園、こども園といった数多くの選択肢の中で耳障りのいい言葉について引き込まれてしまうのも事実。目新しいものではなく、伝統的に変わらずあり続けて、変わらないでいてくれることが幼稚園の存在意義ではないかとも感じる。私自身は幼稚園で育ったので幼稚園の良さを肌で感じているが、もっと若い保護者の方は保育園やインターナショナルスクールに通われた方も増え、保護者の意識も変わっているのかもしれない。そうした保護者の方にも幼稚園の教育を改めて知ってもらうチャンスがあるのではと感じるので、幼稚園の皆様にはそれを1つの機会と捉えて幼稚園の良さ、真髓を発信していただけたらと思う。

H委員

幼児教育のなかで、変わらずにずっと大切にしてほしいと思っていることは、遊びの力の中から自ら獲得して学び、自分で遊ぶ力を育む中で自ら生み出していく力を養うこと。これからの時代に生きる子どもには重要な力になっていくと思う。与えられたことだけをやりこなすだけでは生きていけないというところまで来ていると感じる。自分でちゃんと考え行動してやりたいことを見つけていくことにつながっていくと思うので、とにかく遊びこめる環境の提供が幼児教育のなかでは大事になってくると思っている。家庭でそれを与えるのは、住環境や親の就労状況によって難しい部分もある。共働きを積極的に選択しているわけではない家庭もある中で、親の時間の制約により預かり保育を利用しないとやっていけない家庭もある。家に帰ったら、夜ご飯や寝る準備に追われ、遊びこめる環境をなかなか提供できないこともある。そこを幼

	稚園の教育のなかで補っていただけるとありがたいと感じる。事務局からの説明で、幼稚園が教育のセンターとして機能するというのがあったが、幼稚園が開かれたものとして身近に、気軽に相談に行けるような場所でいていただけると救われる家庭も多くなるのではと思っている。ただ、今の教員数でそれを行うのは難しく、専門の先生などを付けたうえで実施しないと実現は難しいと思う。発育が気になるお子さんについても1人目だと気づきにくいお母さんもいて、自分が困っているということをいろんな施設を転々としてようやく自覚する人も多いのでは。自分自身、区に就学相談しようとしたら、実際にたらい回しにあった経験もある。相談先で「学校を通してほしい」と言われ学校に相談したら「教育センターから言ってほしい」と言われてしまった。幼児教育の中でも子どもの発育が気になってお母さんが自分で探して辿り着いて相談しても、様子見と言われたり、具体的な解決策も出ずに終わってしまうこともある。幼稚園がもっと開かれていて専門の先生と一緒に遊びながら子どもの様子を見て、具体的な提案ができる場があるとお母さんも安心できるのではと思う。
I 委員	実際に子どもを通わせている立場からの意見となるが、幼稚園に限らず保育園においてもいろんなことをやっていただけており、一つ一つは素晴らしいと感じる。自分の情報収集力もあるとは思いますが、保護者同士の会話で幼稚園の取組について知ることもあり、いいことをやっているので入園前の人がもっと知ることができたらいいと思う。また、幼稚園や保育園に限らず、子どものこと、子育てのことについて親が情報を得られ、気軽に利用できて病院で言う総合診療科のような、とりあえず困ったときに相談をしに足を運ぶと情報が入る場を行政として提供していただけたらいいのかなと思う。
J 委員	私の家は町内会にも参加していて、地域の方と接している中で、子どもと遊んでくれるご年配の方もいらっしゃる。幼稚園は地元の方の思いも詰まった、地域の方や子育て家庭など人々を繋ぐ場所だと思っている。自分の町内会だけなのかもしれないが、情報発信が少なくなっていて地域の目に触れる機会も減っていることが、幼稚園の存在感を薄くしているように感じる。預かり保育についてはシステムの話になるが、区立幼稚園では当日の朝登園した時にキャンセル待ちがわかるので、使いづらいと感じる。申込み方法のシステム化や年間利用の条件を柔軟にいただけると利用しやすい。保育園から幼稚園に転園する際にお弁当になることが親にとっての負担感になる。保育園では年少から給食費が無償になっているので、幼稚園でも弁当配送の無償化を検討していただきたい。また、幼稚園は保育園に比べて職員体制が手厚くないと感じる。A委員のお話しにもあったとおり、いい教育を子どもたちにしてあげたいと思うが、それをしてくれるのは先生だと思う。例えば育休明けの先生が引継ぎなしに交代したりしているのを見ると、保護者は不安を感じる。前回もお話したが、職員の増員はぜひ検討していただきたい。
K 委員	幼稚園では園庭開放や未就園児の会なども実施しており、幼稚園に通っている家庭だけでなく、地域の子育てを支援する取組を実施しているところだが、前回ご意見をいただいたとおり、まだ PR が足りていないという部分がある。先月から区立幼稚園のインスタグラムを開設し、動画の配信も行っている。こうした新たな PR を行ってい

	き、地域の方に幼稚園の魅力を知っていただくきっかけにしたいと考えている。幼稚園は園庭などもあり魅力的な施設だと思うので、例えば保育室に余裕がある幼稚園ではこども誰でも通園制度の実施も検討していきたいと考えている、集団教育に徐々に慣れていく機会にもなるので、情報収集をしながら検討を進めていきたい。幼稚園で培ったノウハウを広くほかの保育施設に還元していくことも役割の 1 つと思っている。今も保育園と幼稚園で合同研修会を実施したり、幼稚園のカリキュラムを共有したりと、幼児教育のモデルを率先して示しているところもあるので、そうした役割を今後も担っていければと考えている。
C 委員	今いちばん求められているのは、教員の確保。幼稚園の教員の配置をもっと手厚くしていかなければならない。国の基準は動かないので、区のほうで人員配置の基準を 1 人プラスするなど動いてくださればだいぶ変わる。しかしそもそも教員のなり手がいない。幼稚園だけでなく、小・中学校も教員不足になり始めている。こども誰でも通園制度の話が出たが、これ自体には反対しないものの、今日参加している私立幼稚園代表 3 人とも制度について詳しく知らない状況。区でやるのは構わないが実施前の段階で制度設計に関する説明会をするか、あるいはこうした場で議論するなどをしてほしい。
D 委員	幼稚園の働きということで、0 歳から就園前の子どもたちとご家庭にどうアプローチができるのかというのが主要なテーマのように伺った。保護者が子育てで悩んだ時の相談場所になってほしいということをお願いしたが、幼稚園側あるいは私個人の考えになるかもしれないが、年々子育てが難しくなっており、いわゆるステレオタイプの答えでは解決できない状況が増えていると感じる。親子関係も含めて地域の中で一人ひとりが特殊な状況の中に置かれて、その子どもと親子が幼稚園に来てくれている。幼稚園に来てくれた親子と幼稚園の信頼関係を築くのも、相当丁寧なコミュニケーションを行わないと、その親子にとって本当に有効なアドバイスをすることはできない。ステレオタイプの答えではお母さんたちは納得できないし、信頼関係も崩れかねない。幼稚園に入園されたときにいろんな子どもの個性や課題があるということはわかるけれども、そこをきちんとご家庭と一緒に向き合っていくためには相当丁寧なコミュニケーションと時間をかけていかなければならないというのが今の幼稚園教育の現状だと思っている。幼稚園が教育におけるセンターになるという話は理想かもしれないけれど、時間とお金と人員を割かなければなかなかできないということもわかっていたきたい。日々保育をするなかで、毎日どのようなアドバイスをしたらいいかを考え、親子と信頼関係を作り 1 年、2 年かけてようやく同じ方向を向いて子育てに向かっていけるというのが私の実感。現在の港区での子育てというのはさまざまな要素からシビアになっている面もあって、そこに寄り添っていくというのが幼稚園の第一次的な役割なのでは。幼稚園として子どもや親にどのようにアタッチメントできるか日々悩みながらやっている。いろいろな人が気軽に幼稚園に来られたらという議論ももちろんあるかと思うが、そこで本当に質の高い教育・保育や関わりというのできるのかということを実感に考えたい。それこそが全体で考えるべきことではと思う。一人ひとりの子どもが幸せでなければ、どんな教育や保育をしても意味がない。子どもも親も、自分は大切にされたという実感を持ってもらえるような教育を私たち

	は目指したいと思っているので、そういったことを一緒に考えていきたい。
E 委員	第1回のときに地域社会と繋がっていく幼稚園でありたいというお話しをした。その中で園庭の開放や未就園児の親子登園、保護者同士の交流の場なども園として提供したいなと思い、シミュレーションをしてみたりした。でもやはり自分の今の幼稚園のキャパシティや人員を考えるともう一歩踏み出せないというのが今の状況。やはり人員はとても大事になってくると思う。先日ご年配の方が、自分は卒園生だから園を見たいと尋ねていらしたが、最近是不審者なども警戒しなければならないので慎重に対応をしたということがあった。園庭や園舎の開放もそうした安全面も課題であるし、安心して子どもたちが過ごせる場所である園を作っていくのもとても大切なことと思っている。保護者同士の交流の場も実に興味深いが、先生たちは4時間等の教育時間を精一杯使って保育をしている。その後の預かり保育もあり、大変な状況がある。とにかく、幼稚園には遊び込める恵まれた環境があるということを、地域や社会全体に発信していけるような手立てがあるといいなと思っている。
F 委員	公立幼稚園の立場としてお話しをすると、質の高い教育を実践していくということは、これまでもやっているし今後も当たり前にならなくていい。また私達が実践している幼児教育を、地域の中にある様々な保育、教育施設とも共有しながら、一緒にレベルアップをしていくことに力を尽くしていきたいと思っている。通っている方に満足していただけることは大事だが、通いたければ条件的に難しいと感じている家庭が幼稚園に通えるためにはどうしたらいいかも、考えていかなければいけないと思っている。先ほど保護者代表の皆様にもさまざまお話しいただいたように、幼児教育の重要性や、幼児教育ってなんだろうというところをもっと広く皆さんに知っていただけるよう公立幼稚園として力を発揮していけたらと思っている。
L 委員	前回の会議の中で、幼稚園の園庭が魅力的だというお話あったかと思う。幼児の心身の成長にさまざまな学びをもたらすために、園庭をはじめとした幼稚園の環境がとても良いというお話しを前回共有した。そこにただ園庭があるというだけでなく、教員がいろいろな意図や、こういうふうになったらいいなという願いを込めて環境を準備しているからこそ、質の向上というのにも図られている。そのことが幼児が自分で考え、いろいろな判断して行動する姿にも繋がっているのではと思っている。保護者代表の委員の皆様から、幼稚園がもっと開かれていくといいのではというご意見がたくさん出たが、やはり幼稚園に在籍していると幼稚園の環境の魅力を内側から見て感じるものの、外から見ると敷居があり通っている幼児じゃないと入れないと思われがちなのではと思う。地域の遊び場、あるいは幼児教育のセンターとしての機能というイメージがまだ持ちにくいと思う。地域の子どもの発達を保障するという視点から、公私立幼稚園が今後もさらに地域に開かれていくためには、先ほども出ていた、こども誰でも通園制度なども幼稚園で展開できるといいのではないかなと思っている。幼稚園を核として地域の子どもたち、保護者同士、そうした親子と地域、人と人が繋がる出会いの場となるような幼稚園を目指していけるいいのではないかなと思っている。また、たくさん家庭が幼稚園を選択の一つとして考えられるように、幼稚園のいわゆる預かり保育の時間も同時に考えていく必要があるのではないかなと思っている。

B委員	改めてもう1回切り口を変えて考えを伺ったが、やはりみんなが大事にするのは、子ども一人ひとりが幸せな時間を過ごして、親子で大事にしてもらったと感じられる、そういう時間を過ごせる幼稚園であり、実際今もそうだし、これからもそうあってほしいという願いがあることを、改めて確認させていただいた。この会の大事なことは、いろいろな立場の方がそれぞれの思いをそれぞれの言葉で語ってくださるということ。PRの話もあったが、これを機会に私立か公立かとか、どこに通わせているかとかだけではなく、立場を超えて港区の幼稚園が大事にしていることを発信していくような機会ができたらいいいのではと思う。地域も含めたみんなで港区の幼稚園教育はこういうもので、これが大事だということをPRする機会を具体化する必要があると感じており、この検討会がそのチャンスになるのではないかなと思っているところ。また、それぞれの園がそれぞれの教育を大事にしている。教育課程の時間を十分に大事にしながらやっというところもあるし、役割として、より広く地域のお子さんにも開いてくることを大事にやっというところもある。なので、大事にする方法は同じにしながら、それぞれの園の特徴やできること、子どもたちを園の中で長く保育をしていきたいということも、保護者がお子さんとゆっくり過ごす時間を取れるようにしたいということも、例えば誰でも通園制度などの仕組みを使うところも、それぞれの園の方向性やバリエーションがありながら、進めていけるのがとても大事だと思う。一律にこれだけみんなでやりましょうということではなく、大事にしてきたことは大事にできる、いろんな制度のあり方、組み合わせ方で幼稚園側も教育をしていけるし、保護者の方もそれぞれの考えに沿った形で施設を選んでいけるような方向性が見えてきているのではないかなと感じながら、今お話を聞いていた。
A委員	貴重なご意見をいただいた。幼児教育の振興についてそれぞれの思いがありながらも、子どもを大事にするということが共通点だったと思う。冒頭にもあったように、今の1つめ議題、そして2つめの議題として預かり保育となっているが、幼児期における教育課程外教育と読み替え、時間があまりないので、それぞれ1分程度でお話しいただきたい。本日の資料には、区内幼稚園の現在の預かり保育の実施状況の一覧もあるので、それも参考にいただきながら、教育課程外の教育について預かり保育も含めて今後どうしていくべきかについてご意見をお願いしたい。なかなか家庭だけでは担えないという状況が高まってきていて、区立だけでなく、私立幼稚園でも多くの園で預かり保育をやっている。預かり保育自体が問題なのではなく、子どもたちのためにどのようなスタンスを持って今後やっていくのかが問題。預かり保育だけではなく、教育課程に係る4時間等の教育時間との兼ね合い、教育課程外の教育を幼稚園としてどのように繋いでいきたいか、G委員から順番にお話しいただきたい。
G委員	2 教育課程外における教育について 私が通っている幼稚園も16時半まで預かり保育をしてくださっていて数回利用したことがあり大変助かっている。預かり保育がどんな場でどんな先生にやっというのか、保護者としては心配だったり、それがうまく機能しているか気になると思う。通っている幼稚園に関しては今まで働かれていた教員OBの方が時短

	勤務のような形でお昼過ぎから預かり保育専任として来てくださっているという安心感があって、私はすごく利用しやすいと感じた。人員の確保において、今までのことをよく知っている方にやっていただくと、保護者としては安心感がありすごくありがたいと思う。
H 委員	預かり保育の話になるが、その時代のニーズに合わせていくというのは必要な変化と思っている。A 委員がお話しされた教育課程外教育という部分において、預かりだから DVD 見せておけばいいとかではなく、教育の範疇として日中の保育と中身や方針は大きく変えず、恩恵が子どもたちに還元されるような時間であってほしいと思っている。預かり時間の延長などは確かに共働きの正社員でフルタイムで働いている家庭からしたら必要だと思うが、個人的な意見としては、保育園ほどの時間預かって欲しいとは思っていない。逆に私は子どもを保育園に預けていたとき、18 時まで預けられたのでその分最大限仕事を入れてしまっていた。幼稚園に入って、17 時までしか預けられないから絶対にお迎えに行かなきゃいけないという状況になったからこそ子どもとの時間を確保することができた。収入と引換えになってしまうことだが、その時間は大切だと思っていたので、私は納得して幼稚園に通っていた。しかしそれができない家庭もちろんあると思うので、最低限 18 時まで預かるということがもしかしたら必要になってくるのかなと思うところもある。あとは長期休暇の預かり。幼稚園に預けるときにいちばんのネックは、長期休暇の保育だと思う。夏休み中の 8 月 1 ヶ月であれば空いている保育園に入園するシステムができていたので、それを毎年利用していたが、冬休み・春休み、幼稚園が夏休みに入る 7 月下旬から 8 月までの間はそのサービスがないので、何とかやりくりしなくてはならない。そうした部分も含め保育がちゃんと担保されていると、保育時間が 9 時から 17 時であったとしても、どうにか頑張れる家庭もたくさん出てくると思う。先ほどお話しが出ていた誰でも通園制度に関しては、利用するのが 0～2 歳児になるかと思うので、それを幼稚園の施設でやる際に保育を誰がするのかという部分が課題になってくると思う。区立幼稚園で実施するとなると、事業者に委託することになるのかもしれないが、そうするとやっぱり保育の質をどのように担保するかという点が出てくる。保育園で働いていた身として実感するのは、保育園の先生と幼稚園の先生の質は違うということ。せっかく幼稚園でやるのであれば、幼稚園としての保育の質を担保した上で人材を採用しないと意味がなくなってしまう可能性もあると思うので、そこは絶対死守していただけないなと思っている。
I 委員	自分の実態と感想だが、子ども通わせている幼稚園は、おそらく私立幼稚園の中で一番預かり保育が充実している園だと思う。その中でほぼ毎日 8 時半から降園後 17 時過ぎまで預かっていただいている。家族が時短勤務をし、自分も基本的には水曜日お休みという形にして幼稚園に通わせている。預かり保育でやっていただけるのはすごくありがたいというのが正直な感想。預かり保育の時間帯の中で体操の教室や英語の教室があり、それに対してはいろいろな考え方があると思うが、子どもが行きたいと言っているので通わせている。預かり保育の時間帯に習い事させられるのはありがたい。そのおかげで土日は習い事に行かなくていいので、子どもとの時間が増えており、制度としてとてもありがたいと思っている。長期休暇中も昨年からは預かり保育を

	やっているので、普段どおり幼稚園に登園するような形で夏休みを過ごしている。春休みだけ長期休暇中の預かり保育がないので、その間は区立保育園の一時預かりに申し込むが倍率が高く今年は全滅してしまったので、家族と自分と交互に会社を休んで子どもの相手をしていた。幼稚園にはすごくよくしていただいて、これ以上にどうして欲しいというのではないが、共働きでフルタイムじゃない状態にしてやっている家庭の実態としてこのように過ごしていることを知っていただければと思った。
J 委員	9 時登園ではなく、その前の時間帯の預かりもあるとパートなどで働けるのにとすることもあるので、朝の時間帯を少し延ばしていただけるとありがたい。預かり保育だが、入園した際に保護者の方に「子どもが最近行きたがらない」というようなことは聞いていたが、その半年後実際に利用しはじめる際にも保護者の方に聞いたら、「子どもはやっぱり行きたがっていない」と聞いた。半年間状況が何も変わってないことが少し気になっており、それは先生が少ないからではないかと思った。そうした部分も改善してほしいと思う。先ほど H 委員のお話しにもあったが、幼稚園の先生が入ってきてくださっているときは、子どもも楽しかったと言って帰ってくるので、幼稚園の先生のほうがいいのかと思う。あとは春休みも預かり保育をしてほしい。
K 委員	子どもが安心して過ごせる場所や時間を提供するということは子育ての支援に繋がると考えている。その関係もあり預かり保育の充実というところは必要と考えているが、一方で幼児の心身の負担といったところもしっかりと配慮した運営を考えていかなければならないと思っている。今年度のにじのはし幼稚園でのお話をご紹介いただいたが、やはり質の高い教育をしっかり維持することが重要だと思うので、運営の工夫や内容については検討していく必要があると感じた。
C 委員	そもそもこの議論をここでやることに反対。区の方へのお願いとして、今日の議事次第の「預かり保育について」という部分については少なくとも「教育課程外の教育」に訂正していただきたいと思う。とはいえ私の園でも預かり保育をやっており、H 委員のおっしゃったことに賛成する。私の園の預かり保育を利用している子はとても楽しんでいて、利用していない子が羨ましがるくらい。そういう質の高い預かり保育をやらなければいけない。そのためにはちゃんとした職員をつけなければならない。私の園では専修免許状を持っている教員を預かり保育につけている。国は預かり保育に専任教諭をつけることを認めていない。港区として教育課程外の教育を推進しようとするなら、区として独自に専任教諭 1 人分の人件費を出すようなことを考えていただかないといけないと思う。子どものためにいろいろ良いことをやるのが幼稚園であり、子どものためになるには保護者の方にもある程度の支援はしなきゃいけない。それは私もよくわかっているつもりだが、それが野放図になると子どもの権利を阻害することになるので、子どもの権利を阻害しない範囲内で幼稚園はやっていかなければならないと思っている。
D 委員	C 委員と一緒に、預かり保育というのは親御さんを支援し、子育てを支援するためにとっても大事だと思いながらも、それが子どもの幸福に繋がるか、子どもが幸福なのかどうかについては厳しく見ていきたいと私の幼稚園では考えている。親の幸福と子

	どもの幸福というのはかなり難しいバランスがあるところなので、そのバランスが見極められるかが、今の幼児教育を行っていく一つの視座になるだろうと考えており、その中で預かり保育している。あと、私は保育園出身で、生まれて 27 年間保育園にいたので、保育園にも素晴らしい保育者がたくさんいるということを誤解がないように添えておきたい。
E 委員	うちの園でも預かり保育をしており、教員 2 名で預かり保育にあたっている。なぜ教員がいいかというと、普段の教育時間と違う子どもたちの様子が見られるというのはとても大きなこと。体調の変化だったり、心が沈んでいたり、おうちで何かがあって、それをいつもそばにいる教員相手だと少し話してくれたり、預かり保育がそうした時間にもなっている。教員があたるということを大事にしてやっているが、やはり教員の不足や負担というのは否めないものがある。そのあたりの支援や改善をしていただけると嬉しいと思っている。
F 委員	区立幼稚園では今は 17 時まで、通常の学期中はサポート保育と呼んで預かり保育を実施している。以前は 16 時までだったところが 17 時までになったが、それでももう少し預かってもらえたら通える、というお声を入園説明のときなどに随分いただいた。そういったお声に応え、恵まれた区立幼稚園の施設、教育環境の中で通っていただける方がもっと増えるという意味で、預かり時間を検討する必要はあるのかなと思っているところ。ただ先ほどの H 委員からのお話しにあったように、いくらでも残していいということではないと思っている。保護者の方がお子さんとの時間を大事にしたいという思いと仕事の兼ね合いとで、それぞれの事情があると思う。幼稚園がそれぞれに調整をし、家庭における選択肢を増やすという部分では必要なことなのではと思っている。先ほど教員が行う預かり保育に意味があるのではというお話しがあったが、やはりそういったことも大切だと思う。また、教育課程に係る教育時間と異なり、預かり保育のゆったりとした時間の中で異年齢と関わりながら過ごすというのも子どもにとって良い点だと思っている。異年齢の子どもの関わりや、午前中の教育時間とは違う、ゆったりとした時間が流れている中で、自分の好きなことにじっくりと取り組めるというような良さもある。冒頭お話しがあったが、家庭に戻ってそれぞれの家庭の中で本当に質の高い生活が保障されるのかという点から考えたとき、全ての家庭でそれが必ずしもそうではないことも事実としてあると思う。幼稚園としてはそれを保障し補填していく役割もあると考えている。港区のサポート保育は、お仕事をされている方が年間通じてコンスタントに利用されるというケースと、スポット利用ということで必要なときだけ申込みをして利用されるというような 2 種類の利用の仕方がある。保育園に通われている方は、お子さんが手から離れてお仕事に行くので、お子さんと離れる時間があるが、幼稚園に通わせながら子育てされている方は、保護者ご自身の時間がなかなか取れないので、時には自分の時間を作るために理由を問わず子どもを預けられるというのが、スポット利用の良さであると思う。なかなか育てにくいお子さんの場合なども、少し子どもと離れた時間で一息つきたいというようなこともできるので、そこは大事な点と思っている。預かり保育についても、そうしたことを含めて、幼児期にふさわしい生活をトータルで考えていければいいのではと思っている。

L 委員	いわゆる預かり保育というところでは幼稚園の良好な環境の中で、F 委員のお話しにもあったような異年齢の関わりがあり豊かな体験を提供できるという点からも、とても意味あるものだと思っている。どのように預かり保育の時間を過ごすかというところは、やはり教育課程に係る教育時間との連続性の中で、どのように活動を工夫するのかこれからも考えていかなければいけないと思っている。区立幼稚園の預かり保育に関しては今利用者がとても増えている状況がある。長期休業中は 15 時までの預かりだが、一部の園では抽選も多く発生している。先ほど春季休業中もできれば利用したいという声もあったが、そうした希望に応えられていない現状を区としても認識している。今後どのように対応していったらよいか検討していきたい。
B 委員	幼稚園で行う教育課程外に係る教育活動が、子どもにとって充実して楽しいものになっている幼稚園もあるということなので、そうした事例を共有しながら、子どもにとっていい時間であるよう、そして家に帰ってからも保護者が一緒に子育てを楽しめるように取り組むことを、引き続き大事にしていかなければならないと思った。重ねての意見となるが、いろいろな意味で幼稚園が大事にしている教育を引き続き大事にしていけること、それからそれぞれのご家庭がやっていきたい子育てに合わせて、選んでいけるように取り組んでいき、それをうまく発信していけるといいのではと思う。
A 委員	幼稚園が預かり保育を推進していく立場というよりは、子どもにとっての良質な預かり保育をすることが大切であることは共通認識であると感じた。預かり保育の質の確保を幼稚園に押し付けてしまうのではなく、行政がサポートしながら人材や人件費、遊び道具などについての支援も検討していかないと、良質な預かり保育を作り上げていくのは難しいだろうと思って聞いていた。預かり保育についてそれぞれの貴重なお気持ちをお聞きしたので、第 4 回の検討会に反映させながら、次の課題を提案していきたいと考えている。
C 委員	今回の議事の立て方が間違っている。こういうやり方は今後やめてほしい。今回は地域における幼児教育施設の役割についての部分でも、いろいろな具体的な提案や意見がたくさん出ているのだから、それを具体的に協議して、どう港区として幼児教育の場で生かしていくのかをちゃんとやっていってほしい。今日のように流れでやって曖昧に過ごして、預かり保育やりましょう、というやり方は駄目だ。
事務局	これまでの議論が生かされた議題になってないというご意見については、事務局の方も至らない点があったかと思う。次回以降の資料では注意していきたい。なお、前回の会で委員長から説明があったが、人員確保の問題やこども誰でも通園制度の件については、実務的な話が中心となってくるため、公私立幼稚園連絡協議会の方で検討することと整理している。 3 その他 【事務局より】 ○教育委員会事務局で現在区立幼稚園の魅力向上を検討する中でその基礎資料とす

	るために、保護者向けのアンケート調査を実施している。その調査結果については今後の検討会で共有できればと考えている。前回Ｊ委員から区立幼稚園の保護者向けに、より具体的な運営の中身の改善を含めたアンケートを実施したい旨のご発言いただいたため、そちらについても区も協力して実施できればと考えている。 ○第４回検討会は７月下旬頃を予定。
C委員	アンケートの中身は、この検討会で諮らないのか。アンケートの中身も教育課程外における教育についてしっかり聞いていくことが大事では。そうでなければ預かり保育の時間をどうするかなどという話に必ずなってしまう。そうならないようにお願いしたい。
事務局	今回のアンケート調査は、区における検討のために実施するという事で、すでに対象者にアンケート票を送付している。幼稚園のこういったところに良さを感じて入園したか、幼稚園にこういったこと今後求めていきたいかなどを、在園する保護者だけでなく、保育園に通っている保護者も含め意見をいただくような内容としている。調査結果を提示しその捉え方を含めて今後ご意見をいただければと思っている。